

# 令和元年度第2回奈良市アートプロジェクト実行委員会 会議録

開催日時	令和元年5月9日（木） 午前11時から12時まで	
開催場所	奈良市役所中央棟5階キャンベラの間	
次第	1 開会 2 委員長挨拶 3 議事 (1) 第1号議案 委員長専決事項及び奈良市アートプロジェクト実行委員会会則について (2) 第2号議案 平成30年度事業報告と決算報告について (3) 第3号議案 令和元年度事業計画（案）について (4) その他 4 閉会	
出席者	委員	仲川委員長、佐々木副委員長、青木委員、萩原委員、中室委員 【計5人出席】
	事務局	深村市民部長（事務局長）、中川市民部次長（事務局次長）、池田文化振興課長、吉川主査、荒益係長、一柳、栗原（以上文化振興課、事務局）
開催形態	公開（傍聴人無し）	
決定事項	●全議案について 承認された。 ●ならまちセンターのアートセンター化、アウトリーチ、芸術の持つ創造性を全ての市民・分野に広げていく、2020年後をどうしていくか等の課題を確認。	
担当課	奈良市アートプロジェクト実行委員会事務局（市民部文化振興課）	

## 議事の内容

<p>1 開会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 第1号議案 委員長専決事項及び奈良市アートプロジェクト実行委員会会則について (事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成30年度委員長専決事項、報告。</li> <li>・ 奈良市の組織改正により奈良市アートプロジェクト実行委員会の「事務局規定」及び「財務規定」内記載の市民活動部を市民部に改正、及び事務長の設置。</li> </ul> <p>⇒承認。</p> <p>(2) 第2号議案 平成30年度事業報告と決算報告について (事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成30年度実績報告書、決算報告書、監査報告書報告。</li> </ul> <p>(委員の意見等)</p> <p>佐々木副委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チェ・ジョンファ氏のアウトリーチの取り組みは良い。今まさに Society5.0(※1) や AI の時代で大事なものは創造性。世界の教育も小さい頃から創造性を磨くため保育園にアートプログラムを導入する流れにあ</li> </ul>
---

る。高松市の創造都市計画のクリエイティブ・チルドレン・プロジェクトは、保育園に芸術士という美大芸大出身者を派遣して成果を上げている。周辺の市町村を含め六十件に広がっている。この事業はイタリアのレッジョ・チルドレン・プログラムを参考にしており今後一気に広がる。

- ・ Society5.0 を真面目に取り組んだら幼児教育からになる。アートプロジェクト（\*以下 AP）と親和性が高い。これをパイロットプログラムとしてそれを全市的に広げる。予算自体は小さいがこれは先端的でここからもっと波及していくイメージ。
  - ・ アートはアートの領域で終わる必要はない。待機児童0など数字を追うのではなく中身が大事。その中身と AP は関係性が強くなる方向性で行うとよい。
  - ・ 演劇も中高生（の参加）ですごく良いが、女性ばかりなのはまだ届いていないのでは。教育委員会と連携を取れば変わってくると思う。すごく良いプログラムなのでこれを広げる。それが創造都市という考え方。芸術の創造性を色んな分野に広げるといって全体計画の上に立ってやっていると市民に解りやすい。
- （※1：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された／内閣府 HP より）**

#### 萩原委員

- ・ 美術 WS の子どもの参加者数は？
- （事務局）親子連れが多かったが子どもの数のみは分からない。（花の舍利塔の）下の方は子ども達がほとんどを乗せていた。
- ・ 現代美術は解りにくいというが、従来の文脈で、例えば絵を鑑賞するのと同じ気持ちで見ると解りにくい。実際作られているものはカラフルで奈良にゆかりの仏舎利塔のイメージで、単純な目で見るとすごく楽しい。これが国博に入っている国宝と同じという視点で見るとつまらなく解りにくくなる。その辺をうまく翻訳するような、見方を伝えるような方法が重要かと思う。
  - ・ 子ども達が楽しく一緒につくっていることが大人に響く。保育所でやったことや WS の様子をもっと積極的に打ち出してはどうか。子ども達が楽しんで作って、よく見ると綺麗でカラフルで、今までにない国博のイメージで作られていると伝える。今までと違う美術品の広がりを感じ取れるようになると、保育所でやられていることの意味などが伝わる。それが（今は）ポツポツと切り離されて理解されているのでは。
  - ・ GMC は開校式に行ったが、市民が火に寄り添い色んな話をしていて。改めて思ったが都心部にこれだけ暗い空間がある奈良で火を囲むということが、（奈良に）すごくマッチしている。夜が寂しいというだけではなく、こういう在り方も奈良の売り。例えばここに子ども達の作品が飾られていて火の揺らめきの中でそれを見ながら皆で話し合うなど奈良らしくて良い。夜の暗さが印象的でそれが火を輝かし人が吸い寄せられていく。暗闇の空間が残されている意味を改めて感じた。

#### 青木委員

- ・ 新しい芸術というのは中々受け入れがたくて解らないが、子どもの頃から作ったりするのは情緒的にも大事なこと。まず子どもを教育していくというのは大切と思った。
- ・ 火は温かみがある。月に一度など、奈良の夜のイベントとして PR を行い沢山集まってもらいたいのではないかな。

#### 中室委員

- ・ 中高生が集まる演劇部門に注目して毎年見ている。初心者の子供達がここまで創り上げられるというのに感心した。特にクリエイションスタッフという裏方に手を挙げた子ども達がいて、こうい

う役割も結局は大事な役割だと（理解され）、ずいぶん定着してきたと感じている。ならまちセンターが子ども達の演劇活動が出来る拠点になっていけばいいと思う。

- ・ 沖縄の「あまわり」(※2)を見て人にも薦めている。素人の中高生達が集まって高校を卒業したらやめていく。場を提供したらあれだけの演劇が出来るのかと思った。世界遺産の城がテーマ。奈良の素材とよく似た所があり参考になると思う。

(※2:「<sup>きむたか あまわり</sup>肝高の阿麻和利」初演オリジナル演出:平田大一氏/沖縄県うるま市の中高校生が出演している現代版組踊。沖縄に古くから伝わる伝統芸能「組踊」をベースに、現代音楽とダンスを取り入れて、勝連城 10 代目城主阿麻和利の半生を描く「沖縄版ミュージカル」。1999 年に当時の勝連町教育委員会が、子ども達の感動体験と居場所づくり、ふるさと再発見・子どもと大人が参画する地域おこしを目的に企画した/公式 HP より)

仲川委員長

- ・ ならまちセンターを演劇を核とした「ならまちアートセンター」と名前を変えて芸術監督を置くなど、貸館のウェイトを少し譲って、主催事業や特に教育的要素も念頭に置いたアートの仕掛けが色々出来ると、定着して1センチずつでも蓄積され、100年経てば1メートルの層になるという展開も大事かなと思った。
- ・ 事業の中で取り扱っている、表現でありアクションというものを全方位的に汎用させていって、芸術のもつ創造性を広い分野に広げていくと市民の参加や理解にも繋がっていく。次の年度にも繋がる重要な指摘を頂いた。
- ・ 30年度の事業の報告、決算について

⇒承認

(3) 第3号議案 令和元年度事業計画(案)について

(事務局より説明)

- ・ 令和元年度「古都祝奈良 2019-2020」事業計画(案)、美術部門企画書報告。  
(委員の意見等)

佐々木副委員長

- ・ 北澤氏はこれまで奈良で何かやったことは?

→(事務局) 今回が初めて。先日候補作家として来寧していただいたが修学旅行以来とのこと。

東大寺から商店街、西部地域、奈良町等見て回って可能性を探っていた。 (その際) 奈良の観光地としての側面と生活圏としての側面が思った以上に日常と非日常で、それぞれで人々が感じるものが、(それぞれに) 違っている場所だということと、現在ご自身の拠点の1つであるインドネシア=東南アジアと奈良との関係性をクロスしていくと、今までご自分のプログラムであった日常、非日常にもっと多様な部分が見えてきたようだった。

今までの AP は社会課題があつてそこに突き刺さるような、違和感のある作品であつたりしたが、今回の北澤さんの(プロジェクトの) イメージは、色んなものをクロスすることで何か湧き出て来るものがある、それが佐々木委員の先ほど言われたクリエイティブの部分にもなり、西尾プログラムディレクターが企画書の中で「創造する主体」という言葉で表している、これによって何が生まれるのか、何を生み出そうとしているのか、先の見えない、生まれて来るものに対しての見方を考えるプロジェクトなのではないかと思われる。

#### 仲川委員長

- ・ そういう意味では今年はこの人、今年はこの人と脈絡なく選んできているのではなく、分析、設定していただいているように、戦略的に一本筋が通っている、積みあがっている印象はある。

#### 萩原委員長

- ・ クリエイティブプログラム（\*以下 CP）とラーニングプログラム（\*以下 LP）に分けるとするのは賛成だが、LPの中で創作者だけでなく、鑑賞者を作る、アートに接する層を広げていくという視点も重要なのではないか。
- ・ 現代美術は難しいという話があったが、現代美術に接している層とそうでない層がはっきり分かれてしまっている。幅広い人達にもっとアートの価値を伝えられるような、鑑賞者の能力を高める、鑑賞の質を上げる、そういう視点も重要。
- ・ 単に WS で関わってくれる人達だけではなく、演劇のプログラムの前に鑑賞についてのレクチャーをやったり、ここでやってきたことの意味付けみたいなものを、くどくなく、上からでなく、関わって来た学生たちがこれによりどのように変わったかを語るなど、見る人を引き付け、出来るだけ APにもうちょっと深く引き込むというのも LPの重要な視点ではないか。

#### 仲川委員長

- ・ どうしてもこういった事業は一部の関心のある方（の参加）になる。創造主体を増やすと同時に、関わってくれる方を増やすという視点を入れながら（やっていければ）と思う。若い方とか、これを機に全く関心のなかった方々の、新しい価値観とか可能性が広がるようなことも意識して色々仕掛けをしていければいいのではないか。

#### 青木委員

- ・ そこへ足を運ばないと解らないが、中々興味がないと行かない方が沢山いる。どの辺で興味を惹けるか、何かアイデアが必要。今まで関心のない方もちょっと行ってみたいと思われるようなプレゼンをするとか、皆に案内をするとか、一考必要。

#### 仲川委員長

- ・ （奈良の現状認識が）20年前で止まったままの人が多。おいしいものがないとか、夜が早いとか。西側の方は大阪との往復でそこから先は知らない方が結構おられる。ニュータウン層の人達を今の奈良に繋いでいくことも芸術の力を借りて出来たらいいと思う。

#### 中室委員

- ・ 青少年の演劇の今年の新作、楽しみにしたい。ふるさと奈良を自分の言葉で語れる人材の育成というのは日ごろから感じていること。ここさえずれがなかったらすごく期待出来る。

#### 佐々木副委員長

- ・ ならまちセンターを芸術監督を置いてどのようにアートセンターにするか、2020年まで走って来た次をどうするか、もう一度中長期プランが必要。体制と拠点を作り、プログラムは数年に一回は大規模にやるとか。2016年に北川フラムさんで大規模にやった以降やっていない。そういったものを再びやる計画を立てるなど。例えばアートの場に使える酒造を再生したレストランや監獄ホテルなどが増えている。面的計画と合わせて総合的な計画を今から立ち上げて議論しておかないと、2020年が終わった途端どうするか。財源も含めて使えるものなど20年度（計画）を今から考える必要がある。

#### 仲川委員長

- ・ JW マリオットや星野リゾートのホテルも開業する。文化に関心の高い方が更に世界からやってくる。元々持っている歴史遺産と新しい文化の息吹の両方を感じてもらえたら滞在時間も長くなる。

- ・今年度プロジェクトはこれでいくとしても、プラスアルファ、ならまちセンターのアートセンター化、アウトリーチ、芸術の持つ創造性を全ての市民、分野に広げていくにはどうするか、2020年後をどうしていくか。ちょうど10年前に1300年祭をやったが、遷都1310年祭はちょっと早い、やるきっかけとしては10年は一つのタイミング。この辺を含めてどうしていくか、また皆さんから建設的なご意見を頂戴出来たらと思う。

- ・今年度の方向性

⇒承認

4 閉会

■次回会議日程：7月予定